

競技上の注意

【審判長 石澤 一芳】

本大会は、令和4年6月1日改定・実施の日本卓球ルールを適用して実施する

1 基本ルールについて（抜粋）

① 正しいサービスの要点

- ・サービスは、フリーハンドの手のひらを開き…静止させる。
- ・16cm以上ボールをほぼ垂直に投げ上げる。
- ・サービスが開始されてからボールが打たれるまでの間…サーバーの体の一部または着用している物で、ボールをレシーバーから隠してはならない。
- ・ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアームとフリーハンドを、ボールとネットとの間の空間の外に出さなければならない。

② 促進ルール

- ・ゲーム開始後、10分経過した場合は、促進ルールが適用される。
- ・両方の競技者のポイントスコアの合計が、少なくとも18ポイントに達した場合は、促進ルールは適用されない。
- ・両方の競技者から要請があった時には、いつでも促進ルールが適用される。
- ・促進ルールが適用された場合、そのマッチの残りのゲームは促進ルールで行われる。
(促進ルール適用時は試合を中断し、近くのコート主任にストロークカウンターの要請をして試合を再開させる)

2 競技ルールについて

① ゲームおよびマッチ

- ・各種目ともトーナメント方式でおこなう。1ゲーム11ポイント、5ゲームマッチとする。

② ボール

- ・日本卓球協会公認40mmボール白色とする。(メーカーは、Nittaku・VICTAS・タマスの3社)
- ・ボールは、各コートで選択する。対戦する双方の競技者が同じメーカーを選択した場合は、主審が用意されたボールの中から無作為に選ぶ。互いに異なるメーカーを選択した場合は、トス(ジャンケン)でメーカーを決め、主審が無作為に選ぶ。
- ・マッチ中にボールを交換しなければならない場合は、使用されていた同じメーカーのボールと交換する。

③ ラケット

- ・ラケットには、JITAの刻印および商標、または指定業者名の略称とJITAの連続刻印がなければならない。
- ・JITA未公認の外国製ラケットを本大会で使用する場合は、競技開始前に審判長の許可を得なければならない。
- ・ラケットが使用に耐えられない程破損した場合は、審判主任の許可を得て、競技領域に自分で持ち込んであった別のラケット、または、競技領域内で手渡されたものと交換することができる。

④ ラバー

- ・ラバーは、JITAあるいはITTFに公認された状態で使用されなければならない。
- ・ラバーは、ラケット本体の外周いっぱいまで、しかも外にはみ出さないように覆うものとする。

⑤ 服装

- ・競技用シャツ、ショーツ(ショート・パンツまたはハーフ・パンツ)またはスカートは、いずれもJITAが公認したものでなければならない。
- ・競技用シャツ(袖、襟を除く)、ショーツまたはスカートの主たる色は、使用するボールの色と明らかに違う色でなければならない。
- ・対戦する競技者の競技用シャツは、互いに区別できる程度に異なった特徴を持つものでなければならない。
- ・JITA指定の2022年度(令和4年度)用ゼッケンを、競技用シャツの背中中央部分につける。

⑥ ラケットコントロール

- ・ラバーを本体に貼る場合、揮発性有機溶剤を含んでいないものとしてJITAが公認した接着剤のみを用いて行うものとする。
- ・揮発性の有機溶剤を含むラバークリーナー等は使用してはならない。
- ・審判長が定めた方法により、マッチ前にITTF、JITA公認の検査器を用いたラケット検査が行うことがある。検査に合格しなかった場合は、別のラケットを使用しなければならない。その使用したラケットは、マッチ終了後に検査されることになるが、マッチ前に時間がある場合にはすぐに検査してもよい。時間がなければマッ

手終了後に検査されることになる。もし、マッチ後のラケットコントロール検査に合格しなかった場合、そのラケットを使用した競技者にペナルティーが科せられる。

- ・マッチ前検査にラケットを提出しなかった場合にはマッチ終了後に行われる。
- ・ラケットにラバーを貼る場所は、大会プログラムに記載された指定場所に限る。

⑦ 幕および旗の掲示

- ・競技場内に掲げるチームの幕は、最大寸法タテ1 m×ヨコ4 mとする横幕とし、文字の高さは15 cm～25 cm以内のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。
- ・チームの旗は、タテ1.5 m×ヨコ2 m以内とし、校章・社章またはシンボルマークを中央に入れ、タテかヨコ表示のクラブ名(卓球部名)を入れるものとする。
- ・縦幕は、原則として許可されない。幕・旗の掲示はチームにおいて各1旗とする。

⑧ 試合の結果

- ・試合終了後、勝者および敗者は、対戦記録用紙の内容に目を通した上で署名をする。

⑨ 審判

- ・2日間とも、各コートの第1試合は、主管県の審判員が審判を行う。
- ・第2試合以降は、カデット・ホープスは原則として敗者審判とする。カブは主管県の審判員が行う。審判終了後は、勝者および敗者の署名をもらい、2・3枚目の対戦記録用紙を1枚ずつ両選手に渡し、残りはボードに挿み、敗者に渡す。敗者は、試合後記録ボード(対戦記録用紙)を近くにいる審判主任(コート担当又は審判補助員)に渡し、次の試合の記録ボード(対戦記録用紙)を受けとり、次の試合の審判を行う。
- ・各種目の準々決勝・準決勝・決勝は、主管県の審判員が審判を行う。

⑩ タイムアウト

- ・タイムアウト制は適用しない。

⑪ アドバイス

- ・アドバイザーは1回戦から認める。ゲーム間1分以内を守ること。

⑫ 抗議

- ・本大会は個人戦であるため、抗議は競技者のみが行うことができる。
- ・主審による事実の判定に対し、審判長に抗議することはできない。
- ・主審のルール解釈に関しては、審判長に抗議することができる。

⑬ 競技者のバッドマナー

- ・競技者は、相手競技者に対し不当な影響や観客に不快感を与え、または、そのゲームの評判を落とすような態度を慎まなければならない。(例 大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、故意にボールを潰す、わざと競技領域外にボールを打ち出す、卓球台やフェンスを蹴る、競技役員の指示を無視する など)
- ・ただちにサービスを止さない又は直ぐにレシーブの構えに入らないなどの行為は「スロープレイ」とみなし、バッドマナー扱いとする。

⑭ 濡れ雑巾

- ・フロア内での使用は禁止とする。シートの使用も禁止とする。

⑮ ランキングの決定法

- ・同じ回戦で敗者のランクは、負けた試合の勝ちゲーム/負けゲーム(2-3>1-3>0-3)で決定する。

3 留意事項

- ① 競技者は、競技日程・組み合わせ・タイムテーブルなどをプログラムで確認し、遅れることなくコートへ入場してください。
- ② 進行の都合で、試合時刻や試合コートを変更することがありますので、放送・掲示などに注意してください。
- ③ 飲み物は、持ち込めるのは原則としてできるボトル類とします。
- ④ 携帯電話のフロア内での使用は控えて頂き、持ち込む場合はマナーモードにするか電源を切る等してください。
- ⑤ 競技を録画するための機器を競技エリア内へ持ち込むことは禁止です。又個人情報保護の観点から、対戦相手が写っている動画等をSNS上にアップすることも慎んでください。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症対策等
 - ・チェンジエンドは各種目、準々決勝・準決勝・決勝で適用します。
 - ・タオルの共有や手で卓球台や靴底を拭くなどの行為は行わないでください。
 - ・タオルは、卓球台の脚に掛けず自分の荷物の上に置くようにしてください。